

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2690900283 | | |
| 法人名 | 医療法人健幸会 | | |
| 事業所名 | グループホームさいわい | | |
| 所在地 | 京都市伏見区向島本丸町28-2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年11月1日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年1月9日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JirgyosyoCd=2690900283-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 京都ボランティア協会 | | |
| 所在地 | 〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅浜町83-1「ひと・まち交流館京都」1階 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年11月28日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「こんな施設初めて見た」を目標に、自由な発想でレクリエーション等の活動を行っている。今年度においては、食事レクでの握り寿司を初め、夕涼み火花大会等を行った。また利用者1番人気であるドライブには、予定になくとも当日決定で出掛けている。遠方では瀬田の唐橋まで出掛けた。利用者のわがままは、安心出来る環境に利用者が心身を置いているからこそこの言動であるという視点と、本人らしい生活の継続の基盤は、基本的な心理的ニーズが満たされていることであるという考えを大切にしている。地域のサロンや体操等にも積極的に参加しており、広報誌をサロンに置かせて頂く等、地域とのつながりも重視している。法人本体が、むかいじま病院ということもあり、医療との連携も充実している。急な体調変化にも的確な対応が取れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の尊厳の実現を理念に掲げ、職員は認知症のことを学び、利用者の表面化される症状を理解し、その方の不安感やどうして表現したら良いのかがわからない時などに表面化される感情の起伏や行為は、何らかの原因があるはずだと深堀をし、利用者への関わり方を職員で共有していくことに努められています。日常生活では、スケジュールに追われるのではなく、利用者個々の思いや意向を尊重して、入浴、食事、排泄、レクリエーションや生活の中での役割を計画に載せて実施されています。地域にグループホームのことは知ってもらい、存在感を得るためにも地域に外向かれ、地域に住んでおられた利用者や体力的にも可能な利用者3人と一緒に「すこやかサロン」や「きらめき体操」に出かけて、地域で生活されていた頃の馴染みの方と声を掛け合っています。地域の方に入って来やすい事業所にしたいとの思いで、先日は事業所で音楽ライブを開催し、参加者と盛り上がり、楽しいひと時を過ごし好評でした。今後も定期的に開催し、利用者や地域の方の触れ合う機会にしていきたいと望まれるなど、絶えず前向きに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入居者の尊厳が保たれているということは、入居者個々が他者とのつながりの中で自分は大切にされていると実感していることである。利用者のわがままは、その表れである。ということ、管理者と職員間で共有し、実践している。地域にも積極的に出向き、理念の実践を心掛けている。 | 「私たち職員は、入居者皆様の尊厳を保ち、地域の皆様と共に、穏やかで安らぎのある生活が送れるよう支えていきます」と施設理念を掲げ、グループホームのエレベーターホール前に掲示するとともに、ホームページに掲載して周知している。職員には職員会議や全体研修会で、管理者が尊厳について話をし、ケアカファレンスで振り返っている。 | 施設理念をグループホームのパンフレットに掲載し、利用者の方を大切に取組まれていることや認知症の方が日々自己実現しながら生活されている様子などを広報されることををお勧めします。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 利用者と地域との日常的な交流は難しいが、地域のサロンや体操には利用者と共に毎月参加している。また運営推進会議には、地域に住んでいた入所者1名が入所者代表として参加している。 | 気候の良い時に事業所周辺の散歩であいさつを交わす方もいるが、定期的なすこやかサロンやきらめき体操に参加をすることで、利用者の馴染みの方に会ったり、地域の方との関係が持ててきている。近隣の介護事業所で「向島健康クラブ」を設立し、向島祭りで、「健康コーナー」のブースを担当している。また、今年の夏は、夏祭りにボランティアを募り、5人ほどの方が集まっていたが、コロナの流行で中止になった。今後はさいわい介護センターとして、クリスマスイベントや夏祭り、敬老会を開催し、地域の方や家族に来てもらえる取り組みを考えておられる。また、認知症の啓発や事業所に足を運んでもらう目的でロックコンサートを開催し、地域の方と一緒に事業所で楽しいひと時を持つ事が出来た。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議では、認知症の当事者(入居者)に参加して頂いている。また、地域のサロンや体操に入居者と参加することが、生きた認知症啓発につながっていると考え。 | | |

京都府 グループホームさいわい

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 実施した取り組みに対して、利用者本人からも感想を報告して頂き評価を得、次の取り組みにつなげている。災害に対しても長年地域で生活しておられる民生委員の方の意見を参考にしている。 | 向島南社会福祉協議会、民生児童委員(3人)、地域包括支援センター、利用者代表をメンバーとし、入居者の状況、活動報告、地域活動への参加、認知症啓発等を話し合っている。会議ではメンバーからたくさんの意見や情報が貰えている。管理者からもSNSの発信は地域の方に使いやすいかや、認知症の方の気持ちを歌にして発信してみたいなどの提案が出されている。民生児童委員の方から、地域で起こった災害(宇治川の氾濫や淡路阪神大震災の時の被害の様子)を聞いて、BCP(事業継続計画)を策定する時の参考にしている。家族は遠方の方や多忙にされている方が多く、参加をしてもらうのが難しいので、利用者の代表が参加している。 | ・家族に運営推進会議に出席して貰うのは難しいとのことですので、委員会のお知らせをして、家族としての意見がもらえるようにされてはいかがでしょう。 ・事故やヒヤリハットを議題として扱われることで、真摯に取り組まれている様子が共有できると思います。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の他、地域のサロンには地域包括の職員が出席しており情報共有を行っている。また地域の体操教室は地域包括が主体となり行っている事から顔の見える関係性を築けている。 | 行政の担当課には運営推進会議の報告や、事故の報告には行くが、事業所の状況報告までは至っていない。地域包括支援センターの職員とは関わることも多く、良い関係が築けている。管理者は行政主催の認知症の研修などにはファシリテーターとして参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | さいわい介護センター全体で不適切ケアに関する職員研修を継続的に行っている。玄関の施錠は行われていないが、エレベーターの暗証番号を押さないと動かない仕組みになっている。 | 毎月開催される「さいわい委員会」では、身体拘束廃止委員会や高齢者虐待防止委員会を議題としているが、各部署での拘束や虐待の有無の報告に留まっている。議事録は職員に周知している。身体拘束廃止や高齢者虐待廃止の研修は、全体研修やグループホーム独自の研修で取り組んでいる。利用者が抱えている不安には原因と背景があることを常々職員に伝え、利用者寄り添い傾聴できるように努めているが、忙しい時間帯には対応が難しい時もあるので、チームプレーが大切であると、職員ヒヤリングで話されている。管理者は職員の言葉使いで気になった時はカンファレンスでいわれた利用者の思いとして伝えている。 | 身体拘束適正化委員会や、高齢者適正化委員会の役割から検討すべき課題を抽出され、取り組まれることを期待します。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内研修で虐待の研修を行っている。また、さいわい介護センター全体で、不適切ケアについての研修を行い、虐待へつながる芽を摘む取り組みを行っている。 | | |

京都府 グループホームさいわい

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 利用者の中に、成年後見制度を利用している方がおられ、職員は権利擁護制度等に関して、具体的に理解している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に至るまでに、利用者や家族の想いを十分に把握し、不安点は解消するように心掛けている。基本的に不安点が残った状態での契約は行わない。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者や家族の意見、要望は随時管理者や職員に伝えられる体制になっている。ケアプランの更新の際にも、必ず家族の意向を確認し、施設で行われるケアに反映している。 | 近くに住んでいる家族の方は頻りに面会に来ているが、遠方の方は、電話で意見を聞くことが多い。ケアプランの更新時には遠方の方も必ず電話で意向を聞くようにしている。面会時などに家族から聴いた意見は、必ず管理者に伝えるようにしている。家族からは感謝の言葉が多く、あまり意見は出ていないが、排せつ用品を纏めて購入した時に、請求書に疑問の声が出たので、それ以降は購入の仕方を工夫している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 業務改善等で良い提案があれば、すぐに業務改善を行っている。意見や提案は会議等に限らず、日常の何気ない会話の中からも拾い上げるように心掛け、まず実行する姿勢を大切にしている。 | 職員からの意見や提案は、会議や日常業務の中で聞くことが多く、「職員からの意見はまずやってみよう」「うまくやれなかったら、見直したらよい」とのスタンスで取り組んでいる。職員からは「利用者の上靴が合わないやシャワーチェアが欲しい、歯磨きが上手にできない方への口腔洗浄剤の購入、各居室に加湿器の設置が必要」などの意見があり、これらの意見を活かし利用者の支援に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 今年度大幅な給与改定が行われ、給与体系及び資格給等が引き上げられた。また、キャリアパス制度も具体的に動き出したとは言いが、全職員に明示された。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修の希望を1人1人の職員から聞き取り、年間計画を作成したが、ほぼ実施出来ていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着協の事例検討会等に積極的に参加し、情報共有や情報交換の機会の獲得に努めている。管理者が認知症介護指導者であり、様々な事業所の受講生と研修を通じ交流している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | グループホームに入所される前に、本人の意向や生活歴等を知ること、本人らしい生活がいかに継続できるかをアセスメントしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | グループホームに入所される前に、家族の意向や不安に耳を傾けることで、本人と共に家族も安心して施設利用が開始出来るように心掛けている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族との面談を通じ、本当に必要なサービスを見極め、提案及び支援するように心掛けている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は、利用者を1人の対等な「人」として認識し、介護者が希望するケアを提供するのではなく、本人らしい生活を送る為のサポートをさせて頂いているという意識で本人と接している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 介護保険の更新手続き等、家族がやるべきことは家族に行ってもらっている。また、外部への受診は、基本的に家族の同行とし、全てを施設が行ってしまわない様にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会や外出、外泊等、制限なく行って頂いている。また、若い時から通っておられた散髪屋を家族の付き添いのもと利用しておられる方もいる。 | 馴染みの人や場の把握は生活歴で聞くと共に、日々の生活の中で、利用者から聞き取り、四条通りに馴染みの風景を見に行ったり、平安神宮の近くに住んでおられた方の家の近くにドライブで行き、懐かしい風景を目にされるとハイテンションで教えて下さった時の様子は個人記録や特記事項、介護記録に記入、申し送りで伝え共有している。将棋が好きな方は、若い職員に教えながら対局しているが、勝てるので気持ちよくされている。管理者がギターを弾くと、心得のある利用者はキーボードで、少しずつ弾けるようになってこられている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 常に利用者の様子を観察し、状態を共有するように心掛けている。1人を好む方もおられるが、基本的には利用者同士の相乗効果の中で皆様生活されている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 今まで契約終了＝入院→死亡、又はターミナル期の入院であった為、設問のような対応例はない。しかしながら、いつでも相談に乗れる状態にはある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 基本的には何事も本人本位で構築されている。その為には、本人が安心して生活が送れる環境作りが必須であり、本人のわがまま等は、良い状態にある証拠であるというスタンスに立っている。 | アセスメントで、どの様に暮らしてこられたのかを把握するようにはしているが、十分には聞き取れていない。利用者のご自分の経験値での反応が見られるので、自分から「〇〇をさせて」と言ってこられる環境づくりを大切にしている。意志が伝えにくい方は表情や身振りなどの表出をくみ取り、本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者個々の生活歴を知ることは、本人本位のサービスの構築に欠かせない。全てを知ることは不可能であるが、契約前の面談等で、本人の生活歴や馴染みの生活を知るように心掛けている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1日の過ごし方は、本人の意思を最大限尊重している。心身状態、有する力等に関しては、常時職員間で観察・情報共有を行い、把握に努めている。 | | |

京都府 グループホームさいわい

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画は、まず本人の気持ちを確認する所から始めている。家族の意向もプランの更新時には必ず確認し、介護計画に反映している。モニタリングは毎日と月1回の職員会議で実施している。 | 契約時のアセスメントは管理者がおこない、入居までの情報も含めて、法人のアセスメント表に記入し、それを基に介護計画を作成している。日々のモニタリング用式に短期目標と計画内容を記入し、職員に説明をして毎日モニタリングをおこない、毎月全員のモニタリングを職員会議でおこなっている。しかし、計画に添ったモニタリングは出来ていなかった。6か月で再アセスメントをおこない、医療情報は協力病院の医師の訪問記録で確認をし、家族には現状を伝えて意向を尋ね、介護計画を見直している。著変のある時や更新時は随時見直している。 | 食事、入浴、排せつ、レクリエーションの希望、役割への参加などなど、入居者の意向を必ず確認して、意向に沿って支援をされていますが、入居時の聞き取りが乏しく、人格や習慣、思考などが見えてきません。本人の全体像が見えてくるような記載を望みます。また、日々の支援経過にも日々されている入居者への丁寧な対応が見えてきませんでした。目標達成計画で、センター方式のC-1-2を使い、入居者のことを知る取り組みをされる計画をされていました。丁寧な利用者への支援には、まず入居者のことを知ることが必要だと思いますので、今回こそぜひ実行されることを期待します。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の気付きは、口頭での申し送り及び記録と連絡ノートに記述し、職員間で共有している。必要な場合は、迅速に実践に反映し、ケアプランにつなげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 介護保険施設の枠に捉われず、必要な物品は購入する等、柔軟な姿勢で支援の展開を行っている。家族によるお盆の帰宅(1週間程度)や外食等も制限することなく自由に行って頂いている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | グループホームに入所したから、地域とのつながりが切れるのではなく、受診や行事、日頃の散歩等を通じ、地域の施設や地域住民とのつながりを継続できるように支援している。 | | |

京都府 グループホームさいわい

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 施設と同地域に住所のある利用者も多く、むかいま病院に以前から通院していた方も多い。また、指定の医療機関がある場合は、家族の協力の元、継続して通院して頂くことも可能である。 | 見学時に月2回の協力病院のが訪問診療があることを話し、今までの主治医を希望される方は家族の同行で行かれている。協力病院は同法人病院院長の訪問診療で、受診時に聞いたことは申し送りノートや日々の記録の特記事項に記載して、職員間で共有している。希望者は訪問歯科と口腔ケアの診察を受けている方もある。併設デイサービスの看護師と連携を取り、指示を仰ぐ時もある。緊急の場合家族の指定病院に行く人は院長の紹介状を書いてもらっている。夜間の緊急時は院長に状態を伝えて指示を仰いでいる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 必要に応じてさいわい介護センター1階のデイサービスで勤務する看護師と連携を取っている。受診や救急搬送の指示を仰ぐこともある。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 2週間に1回、むかいま病院からの往診があり、情報の共有は行っている。また、基本的に入院はむかいま病院となる為、日頃から関係作りが出来ている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約の時点で、グループホームさいわいでは看取りを行っていないことを説明している。終末期に関しては、同法人のむかいま病院にて対応することも合わせて伝えている。基本的に短い入院でお亡くなりになる方が多い。 | 見学時に看取りに関する指針で、看取りに対する考え方として、グループホームでは看取りをおこなわず、連携医療機関である向島病院で実施することを伝えている。救急搬送時の「情報提供書」は全員作成して、直ぐに渡せるようにしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 心肺蘇生の実技訓練や、感染対策の実技訓練を法人全体で行っている。また独自に救急隊への情報提供書を作成し、救急搬送がスムーズに進むように工夫している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | BCPの策定により、職員個々が災害の際にどの様に行動すればよいかの共有は行っている。災害の際はさいわい介護センターが地域の避難所になる事を運営推進会議を通じ説明している。 | 火災の避難訓練は年3回昼夜想定で実施し、年2回は消防署の立ち合いがある。避難訓練時に階段を使い避難を試みたが、大変だったので安全な避難の方法を話し合っている。消防士によるAEDの研修や、水消火器の訓練も受けている。地震の訓練は京都市のシェイクアウト訓練に参加している。BCPは9割がた出来上がり、さいわい介護センターの各事業所で肉付けをして、3月までに完成の予定である。備蓄はリストを作成して、水や食料を3日分と毛布や携帯用トイレなどを用意している。災害時はさいわい介護センターを地域の避難場所とする事を運営推進会議で説明している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人の言動には必ず原因と背景があることを理解し、本人の人格や誇りを損ねないよう、共感を前提に声掛け及び対応を行っている。 | 事業所理念でも「私たち職員は入居者の尊厳を保ち」とあるように一番大切にしていることである。プライバシー研修をおこない、一人ひとりの尊厳を大切にしたい関わり方を学び、実践に努めている。利用者の落ち着かれない時や厳しい表情の時はカンファレンスで話し合い、利用者への状態への対応の仕方を共有している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 人間の欲求として、承認欲求と自己実現の欲求がある。これらを満たすためには、生きていくための基本的な欲求が満たされ、心身が安心した状態であることが必要であると指導している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | グループホームさいわいには、大まかな日課しか存在しない。食事や入浴をパスすることも本人の意思次第で、本人のペースで生活を送って頂いている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴の際は、本人と一緒に衣類を選ぶ等、最大限本人の指向を尊重している。また、不要な方には例え失禁があるとしても、リハビリパンツを使用せず布パンツ+パットで過ごして頂いている。 | | |

京都府 グループホームさいわい

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や配膳は職員が行っているが、洗い終わったお盆拭き等は、利用者の能力に合わせてお願いしている。人間が本質的に持ち合わせている承認欲求を満たすように心掛けている。 | 毎日の食事は同法人の「健康プラス」から届き、盛り付けて提供している。ご飯と汁物は事業所で作っている。日曜日の朝食は利用者の好みを入れた食事を職員が作っている。また、月1回昼食やおやつレクリエーションで、利用者の好みを入れて焼肉や、鍋料理、職員が握った握りずし、カレーパーティー（ビーフカレーとキーマカレーがセレクトできる）、おやつはサツマイモを使った月見団子やフルーツ牛乳寒天を利用者と共に作り楽しんでいる。気候のいい時に、中庭や駐車場で、お弁当を取って食べて好評だった。スイーツ外食も楽しまれていた。献立は職員が大きく書き、食べる前に利用者と職員で一緒に読んでいる。利用者には、食卓拭き、食器片づけやお盆拭きをもらい、認められた気持ちや、自分もできるのだと認めることを大切にされている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 好き嫌いを把握し、本人の嫌いな食品は他の食品に取り換える等の配慮を行っている。飲み物は、その方の嗜好に合わせて温度調整し、提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 訪問歯科の往診及びケアを定期的を受けておられる方が多い。毎食後、口腔ケアの声掛け及び介助を行っている。総義歯で自分で歯磨きが困難な方には、モンダミンを使用する等配慮している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 昨年3名の方が、リハビリパンツから布パンツへの移行に成功した。その対応は現在も継続している。一人一人の排泄に関する意思表示を大切にしている。 | 排泄パターンを把握し、その方に合わせて声掛けや支援をおこなっている。昨年3人の方がリハビリパンツから布パンツへの自立に成功しており、現在も継続されている。排泄の自立支援は本人の意思を大切にしながら、布パンツで過ごせるように努めている。ポータブルトイレは夜間だけ使用している方や、安心のために置いておられる方もある。 | |

京都府 グループホームさいわい

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 緩下剤は使用するが、下剤は極力使用しない方向で排便コントロールを行っている。毎朝、ヨーグルトと牛乳を提供し、水分も十分に摂取して頂けるように、工夫している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴時間は基本的に午前中で、本人の希望に添えているとは言えない。しかし、本人の同意なしに入浴は行わず、本人が希望すれば入浴日の変更や午後に入浴する等の配慮は行っている。 | 基本的には週2回の入浴を利用者の意向に沿っておこなっている。入りたくない時は翌日に入られたり、午後からの入浴も希望によりおこなっている。個浴の浴槽は毎回湯を入れ替え、清潔には気を付けて気持ちよく入れるようにしている。重度で浴槽に入れない方はシャワーチェアを利用されている。併設のデイサービスの機械浴の使用は、デイサービスの休みに利用できるが、調整が難しい。年末年始はデイサービスの大きい浴槽で、温泉気分で、柚子風呂を楽しまれている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 安眠や休息に関しては、本人の様子を観察すると同時に本人の意向を聞くことを重視している。職員が望むケアにならない様に注意している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の目的や副作用、用法に関しては、概ね理解している。症状の変化に関しては、詳細に観察を行い、往診時に確実に主治医へ伝えるようにしている。必要な方には服薬の介助を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 能力に応じて役割を持って頂いている。また、15時の飲み物はメニューの中から選んで頂き、本人の嗜好に合った物を提供している。本人の意向を最優先し欲求を満たすことを目指している。 | | |

京都府 グループホームさいわい

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 本人の要望にその都度答えられてはいるが、適宜の散歩や外出行事を多く実施している。また家族と外食や外泊に出掛けられる方もおられる。外出行事に家族の参加を呼びかけているが、地域との協力体制は築けていない。 | 気候の良い時は、週2回程度車椅子で散歩に出かけている。毎月3人の方は、すこやかサロンときらめき体操に出かけることが定例化している。ドライブで石山寺で車窓からの花見や、けいはんな記念公園への紅葉狩りでは、下車して写真を撮ったり楽しんでいる。ショッピングモールのスイーツ外出や、瀬田の唐橋に出かけている。利用者はドライブが好きで、天ヶ瀬ダムにも行っている。家族と外食に行く方、外泊ができる方、お盆に1週間ほど外泊される方々もおられる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭の管理は事務所でやっているが、本人が欲しいものがあれば、本人と家族の同意を得て職員の付き添いの元買い物に出掛けている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 基本的に電話や手紙のやり取りは制限していない。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 認知症の方の特性を理解し、無用な雑音や光の反射等を排除することで、落ち着いた空間作りを心掛けている。また、季節に応じた飾りつけや、会話の中に日付や季節の話題を盛り込むように心掛けている。 | 無用な雑音や光には気を付けて穏やかな時間を過ごしてもらえる様に配慮している。フロアでの朝の時間は、手作りの日めくりカレンダーで、日付けの確認をしている。壁には利用者と一緒に作った季節の装飾が飾られ、観葉植物の緑が落ち着いた雰囲気を出している。日中はフロアに集い、利用者同士や職員とのおしゃべり、ユーチューブでの体操、テレビを見たり、歌を歌い楽しんでいる。食事中はテレビを消して食べることに集中できるようにしている。換気は一日3回定期的におこない、空調機や加湿器で室内の温度や、湿度の調節をしている。清掃は職員が分担を決めておこない清潔には気を付けている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間の中での過ごしは基本的に自由である。食席も、決められたものでなく、自由に選択できる形になっている。現在の食席はその結果定着した形となっている。 | | |

京都府 グループホームさいわい

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には本人の可能な範囲で馴染みの家具や使用していた物を持ち込んで頂いている。コップや食器等も使い慣れた物があれば、出来るだけ持ってきて頂くようにしている。 | 居室は3階にあり、周囲にさえぎる建物はなく明るい。部屋には介護用ベッド、空調機、照明器具、カーテン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。馴染みのぬいぐるみや購読している新聞が重ねられ、整理タンスや炬燵、テレビを見やすい位置に置き、壁には大きいカレンダー、家族の写真などを家族と相談して設えている。今年度から、職員の声で、全室に加湿器を置き、乾燥に気を付けている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレ等の提示は、高めと低めに場所に設置しそれぞれの目線に合わせている。トイレの水の流し方や、食事のメニュー等を掲示し分かることを増やすように心掛けている。 | | |